東北６県と整備局が創る
河川・ダム・砂防・海岸事業の新たな連携
「個性の大地」

第４１号（平成２５年１月）
～復興を実感できる年へ！～
東北地方整備局河川部
地域河川課　発行

## 整 備 局 情 報

### ◆『新年にあたり』

地域河川課 課長　高橋　淳



２０１３年の新年にあたり一言ご挨拶いたします。

昨年４月に地域河川課に赴任し、予算関係の打ち合わせを行わせていただきました。それを受けて本省説明等においては、「今年度東北は復興元年である」と話しています。

被災の大きかった岩手県、宮城県、福島県におかれましては、災害と復興枠を合わせ約６，６００億円というかつてない事業費を平成２７年度まで復旧、復興事業として行う必要があります。特に海岸や河川は市町村のまちづくり（３７市町村）と並行しながら、計画、用地、工事を進めていく必要もあり難儀しておられますが、地域の状況を勘案しつつ遅れることがないよう市町村、県、国の関係機関が連携を図っていくことが必要です。これに合わせ、河川整備計画や海岸保全基本計画の変更手続き、道路や鉄道等との調整、環境や景観等への配慮等も求められていることから、工程管理を的確におこなっていくことが重要と考えております。

次に集中豪雨等への対応です。平成１９年９月米代川での秋雨前線豪雨においては、総雨量約２８０mmの記録的な豪雨となり、４河川の堤防が９箇所で破堤し、３９０戸余りの家屋浸水が発生しました。平成２３年７月の新潟・福島豪雨では、時間雨量約７０mm、総雨量が７１０mmを記録し、会津地方の一般被害は全半壊２３０戸余り、床上・床下浸水２７０戸余りの被害が発生しています。昨年も５月の低気圧や６月の台風による出水で破堤しました。発災後速やかに災害復旧に着手することはもちろん、再度災害防止についても対応するとともに、基本的には計画的かつ着実なソフト対策も含めた河川・ダム・砂防事業等を推進することが望まれます。

そして、これからは維持管理が重要です。日本の総人口は平成１７年をピークに減少し続け、平成２７年には４人に１人が６５歳以上となり、労働人口の減少、少子高齢化社会に入っております。一方、国と県の河川管理施設約３万施設が、平成３３年度には、建設後４０年以上経過する施設の割合が約６０％を越えるとの試算が公表されました。万が一出水時等に不具合が生じた場合は重大な事故となるため、限られた財源の中で、ライフサイクルコスト縮減を図るため「長寿命化計画」を策定し、設備の信頼性を確保しながら長寿命化を図ること、的確な維持管理に努めることは必須のことかと思います。

東北地方は広大で都市間距離が長く、地形や気候も厳しく、さらに人口減少・少子高齢化が著しく進んでいますが、住んでいる皆さんが等しく安全・安心な生活を享受出来るよう、社会基盤を計画的かつ合理的に整備、管理していくことが望まれます。

今後とも市町村、県、国の関係者が情報共有・連携を図るための環境づくりに努めていきたいと思います。

皆様本年もよろしくお願いいたします。

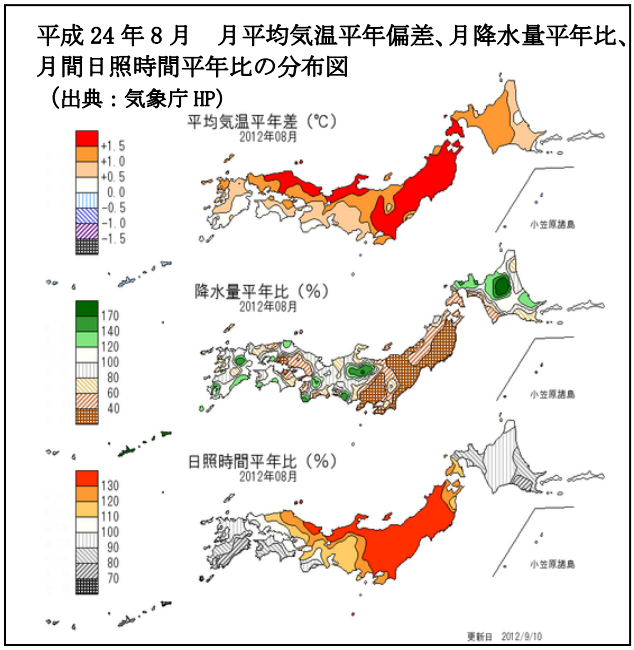
## ◆『平成２４年度　東北地方整備局管内　補助ダム渇水状況のまとめ』

地域河川課　整備第一係

東北地方の平成 24 年の１ヶ月降水量は、6 月から 10 月まで平年比を下回り、8 月には平年比の約 3 割程度とかなり少ない値を記録しました。東北地方の補助ダムでは貯水率の減少し、秋田県萩形ダムで貯水率 0%となるなど、多くのダム貯水率が平年値を下回り、過去最低の貯水率となりました。

これにより、22 の補助ダムにおいて、渇水情報連絡会等を開催し利水者や関係機関との情報交換を緊密に行うとともに、水利用の調整を行うなど渇水対応を実施しました。

**平成 24 年 8 月　月平均気温平年偏差、月降水量平年比、月間日照時間平年比の分布図**
**（出典：気象庁 HP）**




**平成 24 年東北地方の偏差（出典：気象庁 HP）**

| 月 | 平均気温 平年差(℃) | 降水量 平年比(%) | 日照時間 平年比(%) | 月 | 平均気温 平年差(℃) | 降水量 平年比(%) | 日照時間 平年比(%) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | −1.3 | 63 | 99 | 7 | +0.7 | 89 | 110 |
| 2 | −1.8 | 117 | 97 | 8 | +1.9 | 32 | 136 |
| 3 | −0.5 | 154 | 83 | 9 | +3.5 | 88 | 131 |
| 4 | −0.5 | 89 | 94 | 10 | +1.2 | 92 | 108 |
| 5 | +0.3 | 145 | 95 | 11 | +0.1 | 148 | 74 |
| 6 | −0.3 | 79 | 118 | 12 | −1.4 | 138 | 91 |

**東北地方整備局管内　補助ダム渇水対応（集計表）**

| 県 名 | 対象ダム数 ※1 | 渇水連絡協議会等開催 | | 渇水対応 | | | 貯水率低下による取水制限等の内容 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 協議会等開催 | ダム単独開催 | 節水の呼び掛け等 | 発電取水の調整等 | その他 | 上水道取水制限 | 農業用水取水制限 | 工業用水取水制限 | 水力発電停止 | 施設使用制限等 | 水質悪化 | その他 |
| 青森県 | 8 ダム | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 岩手県 | 8 ダム | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 宮城県 | 11 ダム | 8 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 秋田県 | 13 ダム | 6 | 2 | 0 | 7 | 0 | 0 | 2 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 |
| 山形県 | 11 ダム | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 福島県 | 9 ダム | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 東北地方 | 60 ダム | 16 | 6 | 3 | 10 | 0 | 2 | 5 | 0 | 9 | 0 | 0 | 1 |

※1：対象ダムは、治水のみのダム、H20岩手・宮城内陸地震で水位低下中の荒砥沢ダム、避難指示解除準備区域内の木戸ダムを除く。

**東北地方整備局管内　補助ダム渇水状況の記録（情報共有、渇水対応及び取水制限等を実施ダム）**

| 県名 | ダム名 | 形式 | 管理開始年 | 目 的 | 水系名 | 河川名 | H24最低貯水率生起日 | H24最低貯水位（m） | H24最低貯水量（千m3） | H24最低貯水率（%） | 平年値貯水率（%） | 既往最低貯水率生起日 | 既往最低貯水率（%） | H24渇水の評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 青森県 | 目屋ダム | G | S35 | FNP | 岩木川 | 岩木川 | H24.8.13 | 160.42 | 2,885 | **2.1** | **68.5** | S63.8.27 | **0.0** | 2年連続の渇水 |
| 宮城県 | 大倉ダム | A | S37 | FAWIP | 名取川 | 大倉川 | H24.9.28 | 249.98 | 3,830 | **25.5** | **30.0** | S62.4.2 | **2.3** | 過去10年間の9月で第6位低貯水率 |
| 宮城県 | 南川ダム | G | S63 | FNW | 鳴瀬川 | 南川 | H24.10.24 | 86.5 | 1,273 | **17.7** | **64.4** | H20.8.16 | **32.7** | 既往最低の貯水率 |
| 宮城県 | 宮床ダム | G | H12 | FNW | 鳴瀬川 | 宮床川 | H24.9.17 | 90.7 | 1,323 | **44.1** | **76.2** | H12.9.11 | **40.1** | 既往第3位の低貯水率 |
| 宮城県 | 漆沢ダム | R | S56 | FAWIP | 鳴瀬川 | 鳴瀬川 | H24.9.2 | 250.43 | 1,972 | **30.3** | **65.6** | S59.4.1 | **6.6** | 既往の7月～9月で第6位の低貯水率 |
| 宮城県 | 化女沼ダム | E | H8 | FN | 北上川 | 長者川 | H24.9.18 | 24.64 | 309 | **44.1** | **44.1** | H13.7.31 | **18.4** | |
| 宮城県 | 上大沢ダム(生) | E | H16 | FW | 北上川 | 上大沢川 | H24.9.24 | 310.58 | 15 | **19.5** | **20.8** | H18.9.5 | **13.9** | 既往の7月～9月で第3位の低貯水率 |
| 宮城県 | 花山ダム | G | S33 | FNWP | 北上川 | 追川 | H24.9.3 | 113.49 | 4,488 | **37.4** | **71.0** | S63.10.21 | **14.2** | 過去10年間で第1位の低貯水率 |
| 宮城県 | 小田ダム | R | H18 | FA | 北上川 | 長崎川 | H24.9.11 | 145.16 | 24 | **0.5** | **16.0** | H23.9.1 | **0.0** | 平成18年以降で第3位の低貯水率 |
| 秋田県 | 萩形ダム | G | S42 | FNP | 米代川 | 小阿仁川 | H24.9.22 | 205.5 | 0 | **0.0** | **31.7** | H21.10.8 | **0.2** | 既往最低の貯水率 |
| 秋田県 | 素波里ダム | G | S46 | FAP | 米代川 | 鉛毛川 | H24.9.26 | 112.79 | 593 | **1.6** | **29.0** | H8.9.20 | **0.0** | |
| 秋田県 | 鎧畑ダム | G | S33 | FP | 雄物川 | 玉川 | H24.10.5 | 300.83 | 1,547 | **4.1** | **84.0** | H23.8.23 | **57.0** | 既往最低の貯水率 |
| 秋田県 | 皆瀬ダム | R | S38 | FNAP | 雄物川 | 皆瀬川 | H24.9.4 | 224.27 | 905 | **3.4** | **16.0** | H6.8.17 | **0.0** | 既往第12位の低貯水率 |
| 秋田県 | 板戸ダム | G | S60 | NP | 雄物川 | 皆瀬川 | H24.8.14 | 191.98 | 822 | **59.9** | **89.1** | H6.8.29 | **8.8** | 既往第4位の低貯水率 |
| 秋田県 | 岩見ダム | G | S54 | FNP | 雄物川 | 三内川 | H24.9.8 | 125.09 | 348 | **9.9** | **49.0** | S63.8.29 | **1.0** | |
| 秋田県 | 協和ダム | G | H10 | FNW | 雄物川 | 淀川 | H24.9.5 | 213.75 | 250 | **16.1** | **84.0** | H20.3.10 | **3.0** | |
| 秋田県 | 大松川ダム | G | H11 | FNAWP | 雄物川 | 松川 | H24.9.30 | 161.58 | 220 | **2.0** | **21.6** | H23.8.16 | **4.4** | 既往最低の貯水率 |
| 山形県 | 高坂ダム | G | S42 | FP | 最上川 | 鮭川 | H24.8.12 | 181.64 | 577 | **26.8** | **42.0** | S59.8.20 | **4.7** | 過去10年間で第3位の低貯水率 |
| 山形県 | 蔵王ダム | HC | S45 | FNW | 最上川 | 馬見ヶ崎川 | H24.9.1 | 581.3 | 648 | **21.0** | **69.0** | S48.9.5 | **1.0** | |
| 山形県 | 綱木川ダム | R | H20 | FNW | 最上川 | 綱木川 | H24.9.23 | 444.41 | 657 | **19.3** | **88.4** | H24.3.5 | **38.3** | 既往最低の貯水率 |
| 山形県 | 荒沢ダム | G | S31 | FNP | 赤川 | 赤川 | H24.9.16 | 232.54 | 1,785 | 10.0 | 17.9 | S60.9.7 | −15.6 | 例年並み |
| 福島県 | 日中ダム | R | H4 | FAWP | 阿賀野川 | 押切川 | H24.9.19 | 437.09 | 2,444 | **20.2** | **65.3** | H8.9.21 | **9.9** | 既往第2位の低貯水率 |

※対象60ダムのうち11ダムで既往最低の貯水率を記録。
〔青森県〕川内・世増〔岩手県〕鷹生〔宮城県〕南川〔秋田県〕萩形・山瀬・砂子沢・鎧畑・大松川〔山形県〕白水川・綱木川

◆『砂防事業関係の話題提供』

地域河川課　整備第二係

## ①平成２４年の東北地方の土砂災害等発生状況

平成２４年は九州北部豪雨に伴う土石流など、全国では多くの土砂災害が発生し、死者も２０名以上となりましたが、幸い東北地方では土砂災害発生件数は例年と比較すると少なく、人的被害もありませんでした。

東北地方の主な土砂災害としては、４～５月に発生した融雪に伴う山形県大蔵村肘折地区の地すべり災害や、５月に発生した前線豪雨に伴う秋田県湯沢市泥湯温泉のがけ崩れ災害などがありました。肘折地区地すべり災害においては、温泉街が一時孤立するなどの被害が発生し、国交省と山形県の共同による緊急対応を実施しました。また、泥湯温泉がけ崩れ災害では、温泉旅館３施設に避難指示が出され、県による対策工事が実施されました。

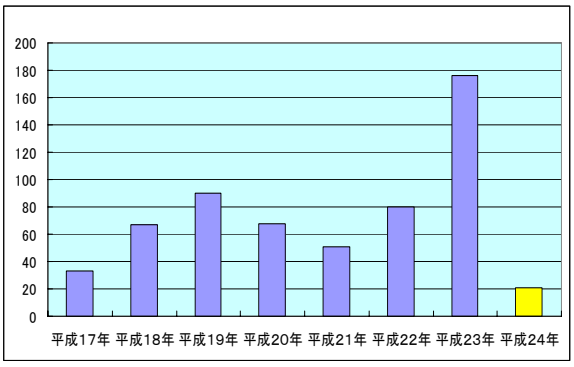
※なお、土砂災害以外では、２月に秋田県仙北市玉川温泉で死者３名の雪崩被害が発生しております。

**平成２４年　東北地方の土砂災害発生状況**

○発生件数　２１件（土石流１件、地すべり１１件、がけ崩れ９件）

○被害状況　人的被害：無し（人家被害：一部損壊１戸、床上浸水１戸）

※現時点の地域河川課集計値（今後、変更の可能性有り）





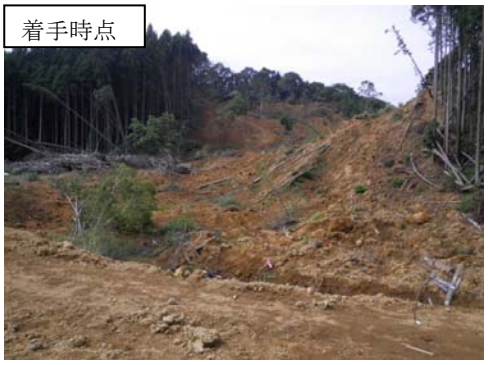

山形県大蔵村肘折地区の地すべり（平成 24 年 5 月）

## ②東日本大震災による土砂災害箇所の復旧状況について

平成２３年３月の東日本大震災で土砂災害が発生した箇所のうち、早急に対策が必要な１４箇所で、県による災害関連緊急砂防等事業が実施されています。（そのほか、市町村による災害関連地域防災がけ崩れ対策事業が３９箇所で実施中）

１４箇所のうち９箇所については、今年度中に工事完成する見込みです。

着手時点





平成 24 年 11 月末時点

東日本大震災で死者１３名の被害が発生した福島県白河市葉の木平地区の地すべり対策実施状況

## ◆平成２４年度水管理・国土保全局所管国庫補助事業等完了検査を終えて

水政課　予算係
地域河川課

平成２４年度水管理・国土保全局所管国庫補助事業等完了検査は、東日本大震災の災害対応等の各県の事情を考慮し、今年度は９月から１１月にかけて青森県、岩手県、宮城県（仙台市含む)、秋田県、山形県３日間、福島県２日間の日程で検査を実施しました。東日本大震災の復旧対応等のお忙しい中検査にご協力いただきました各県の担当者の方々にはこの場をお借りし、御礼申し上げます。

補助事業の完了検査は、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」に基づき補助事業の成果や執行が補助金の交付決定の内容に適合するものであるかを確認するものですが、検査を通じ自治体と国の担当者が現地で意見交換や情報交換をすることでより効率的で質の高い事業の執行を目指すものです。

１２月に東北地方整備局河川部内で「平成２４年度水管理・国土保全局所管補助事業等完了検査報告会」を実施し、各検査官からの検査報告及び報告に対する検討を行った結果、いずれの検査も不適合となるような事項はありませんでした。

今後さらなる効率的で質の高い事業の執行に向けて、報告会での議論の一部を留意事項として以下に整理しましたので、今後の事業執行の参考にして下さい。

なお、平成２２年度から従来の個別補助金が交付金化されているところですが、東北地整管内では今年度初めての交付金の検査も含まれました。交付金は、従来の個別補助金より大幅に事業執行の手続きや審査等が簡素化されている分、手続き等に間違いや認識の違いがないかなど完了検査は今後ますます自治体と国において点検をする重要な位置づけとなって行くものと思われます。

【事務的な留意事項】
・不適合となるような事項はありませんでしたが、引き続き、適切な予算の執行（特に繰越の取り扱い、アロケなど）に留意してください。

【技術的な留意事項】
・各自治体とも鋭意事業の執行に努めているところですが、各段階、段階でもともとの設計思想を十分にチェックし、担当者が変わっても本来の設計思想に沿った事業の展開が継続して図られ、効率的・効果的な事業執行に努めるようお願いします。
・工事完了後の適切な管理がなければ事業効果が損なわれることもあります。今後も計画的な維持管理に努めて下さい。

## トピックス

### ◆『定川河川災害復旧工事着工式』を開催しました！

宮城県　土木部　河川課

東松島市、石巻市及び県は、平成２４年１０月１７日（水）、定川河川災害復旧工事着工式を開催しました。

阿部東松島市長、亀山石巻市長、三浦副知事など、約７０人が参加し、沿岸地域の一日も早い復興と、被災された地域の方々が安全で安心な日々の生活を取り戻すことができるように祈念し、着工式を執り行いました。

今回の復旧箇所の河川堤防は、Ｌ１津波に対応した T.P.+4.5m で復旧し、平成２７年度までには完成する予定です。

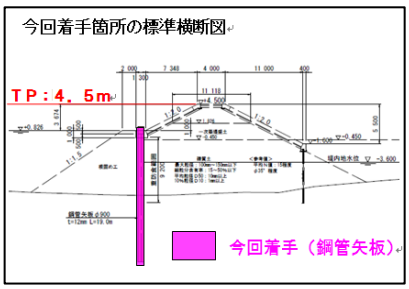








一日も早い復興を祈念し、鍬入れを行いました。





郡復興大臣政務官


橋本国土交通大臣政務官


岡崎参議院議員


阿部東松島市長


亀山石巻市長


三浦副知事


鋼管矢板打ち込み

## ◆「払川ダム試験湛水式及びダム湖命名式」の開催について

宮城県　土木部　河川課

### １．はじめに

二級河川伊里前川水系伊里前川、宮城県本吉郡南三陸町歌津字払川地内に宮城県が建設を進めている払川ダムについて、平成２４年１１月１日に地元関係者をはじめ発注者である宮城県、ダム本体工事の施工者である間組・若生工業特定建設工事共同企業体など工事関係者、約６０名が出席し試験湛水式及びダム湖命名式が執り行われました。

### ２．払川ダムの概要



払川ダムは、洪水調節、水道用水及び流水の正常な機能の維持を目的とする多目的ダムであり、堤高３８．９ｍ、堤頂長９４．５ｍ、堤体積３２，０００ｍ３、総貯水容量９５０，０００ｍ３の重力式コンクリートダムです。

平成４年度に建設事業に採択され、平成２１年３月には本体工事に着手し、平成２４年５月に堤体コンクリートの最終打設を行いました。その後、施工者の計画的な工程管理により工事は順調に進捗し、平成２４年１１月から試験湛水を行うことになりました。

### ３．試験湛水式及びダム湖命名式について




試験湛水式は、安全確認を行った後、仮排水路をゲートで閉塞し、参加者全員の万歳三唱で式が締めくくられました。

また、湛水の開始に伴い誕生する「ダム湖」の名称については、「払川ダム湖名前選定委員会」により、「親しまれる名称であるか」、「地域に由来する名称であるか」などの視点で審査を行った結果、南三陸町と気仙沼市にまたがりツツジで有名なランドマークとなっている「田束山（たつがねさん）」に由来するダム湖名として「田束湖（たつがねこ）」が選定されました。試験湛水式に先立って執り行われた命名式では、このダム湖名が発表され、地域の皆さんに愛され、親しまれるダム湖「田束湖」が誕生しました。

### ４．おわりに

払川ダムは、治水安全度の向上並びに水道用水の安定的な供給のみならず、東日本大震災で被災した南三陸町の復興のシンボルになるもので、今後も工事関係者、発注者が一丸となり事業完了に向け取り組んでまいります。

## ◆『いわき管内海岸災害復旧事業合同起工式』が開催されました！

福島県　河川整備課

### １．起工式について

福島県では、いわき市の久之浜地区海岸において、平成２４年１１月７日に「いわき管内海岸災害復旧事業起工式」を実施しました。

これは、東日本大震災の津波被害を受けた福島県内の海岸のうち、県内で初めて、海岸堤防の本格的な復旧工事に着手するものであり、いわき市久之浜町の久之浜地区と同勿来町の関田地区において、合同安全祈願祭と起工式を執り行いました。

まず安全祈願祭では、東日本大震災津波による犠牲者の皆様へ黙祷を捧げた後、内堀副知事や来賓の方々による地鎮の儀が行われ、工事の安全を願いました。

続いて行われた起工式では、副知事の式辞の後、若井国土交通大臣政務官、渡辺敬夫いわき市長をはじめ来賓の方々から御祝辞を頂戴し、県内初の海岸堤防復旧着手を祝うとともに沿岸部の早期の復旧・復興を誓いました。



刈初めの儀



起工宣言



海岸堤防丁張状況

### ２．東日本大震災による県内津波被害の概要

東日本大震災の津波被害により、県土木部が所管する海岸保全延長 91 kmのうち、約 50 km（平成 24 年 4 月 1 日時点の警戒区域内を除く）が、堤防の決壊、護岸の倒壊などの甚大な被害を受け、約 112km2 の広大な範囲が浸水するなど、堤防背後の集落も壊滅的な状況となりました。

### ３．災害復旧工事の着工について

今回着工するいわき管内の復旧工事は、

①久之浜地区海岸

全体復旧延長約 2,140m のうち、北側堤防の約 1,100m を T.P.+7.2m に嵩上げ。(H=1.0m 嵩上げ)

②関田地区海岸

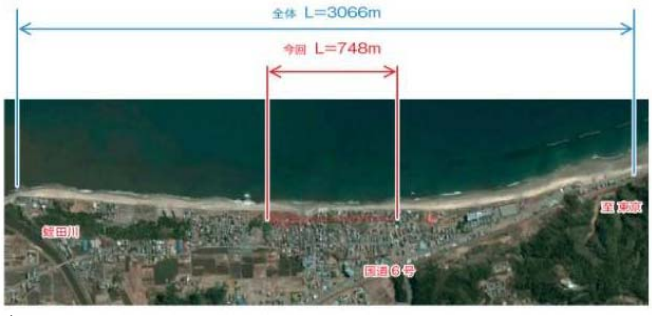
全体復旧延長約 2,700m のうち、中央部堤防の約 750m を T.P.+7.2m に嵩上げ。(H=1.0m 嵩上げ)

両地区海岸ともに、平成 27 年度全体区間の完成を目標に整備を進めます。

久之浜地区海岸



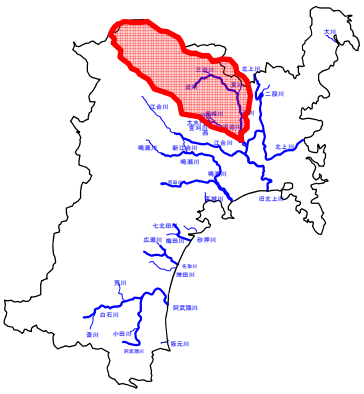

関田地区海岸



## ◆『迫川改修８０周年記念イベント』を開催しました！

宮城県　土木部　河川課

一級河川北上川水系迫川の改修事業着手８０周年を迎え、洪水や治水対策の歴史、流域の豊かな自然環境が有する魅力、今後の河川管理のあり方等について地域の方々と共有するとともに、川を通じた人と人との絆や地域のつながりを再考し、未来に向けて新たな歴史を刻んでいくために、記念イベントを開催しました。





若柳狭窄部を流れる迫川

基調講演およびパネルディスカッションでは、治水事業の難しさや迫川改修の歴史、そして東日本大震災により被害を受けた迫川流域の復旧・復興への取組など、多岐にわたる話題が提供されました。また、地域伝統芸能である「とよま囃子」の演舞が披露され、会場は賑やかな太鼓の音に包まれました。



式典の様子



日本河川協会理事　青山俊樹氏



宮城県土木部長　橋本潔



「とよま囃子」の演舞



パネルディスカッション

迫川改修８０周年記念イベント（平成２４年１１月１６日開催）の様子

一級河川北上川水系迫川は、栗駒山を源に発し、栗原市から登米市へと流れ、旧北上川に合流する宮城県屈指の大河川であります。その豊かな水量は、県内有数の穀倉地帯を支える半面、幾度となく水害を経験しており、古くは藩政時代から治水事業が行われてきました。このため、県では、昭和７年に下流部の新川開削事業に着手して以来、ダムや遊水池等による洪水調節方式を全国に先がけて積極的に採用するなど、総合的な河川改修事業を着々と進めてきました。現在においても、長沼ダムがまもなく概成し、治水的な懸案であった若柳狭窄部の工事着手を迎えるなど、更なる治水安全の向上を図っております。

## ◆ 『蟹田川多自然川づくり』

青 森 県

### １．はじめに

蟹田川は、津軽半島北東部にある丸屋形岳にその源を発し、外ヶ浜町蟹田の中心街を貫流して、陸奥湾に注ぐ流路延長 21.8km、流域面積 113.4km2 の二級河川です。当河川では、春にはシロウオ漁が盛んに行われ、地元漁協が定期的にヤマメやイワナ等の稚魚を放流するなど積極的な魚類の保全活動が行われています。



シロウオ漁



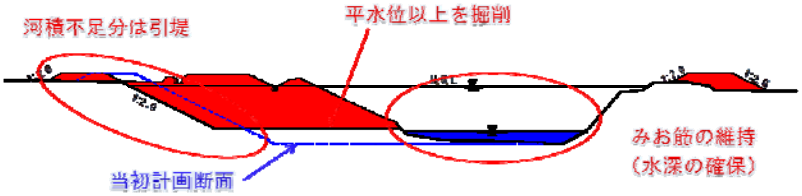
ヤマメ等の稚魚の放流

### ２．魚類に配慮した多自然川づくり

当河川では、平成 4 年度に県単独事業による河川改修に着手しましたが、中流部の南沢地区では、平成 14 年、平成 17 年、平成 21 年と度重なる浸水被害が発生しました。このため、平成 22 年から浸水被害を早期に解消するため、緊急整備区間を設定して改修を進めています。

現況河道は、河積が小さく大きく蛇行していましたが、河川法線の大幅な是正や河床掘削では魚類の生息環境などの現状の良好な自然環境を消失してしまうおそれがありました。そこで、現況の河道を極力変更せずに、河道拡幅により河積を確保することで水位の低減を図りました。拡幅は、みお筋の保全を図るため平水位以上の片岸掘削とし、河畔林も極力保全しました。水衝部は、ブロックマットに覆土することで早期に植生が回復できるように配慮し、水衝部以外は、護岸を施工しない2割勾配の断面とし、川の営みによる自然な川づくりを目指しています。

施工時期は、地元漁協との協議により、ヤマメ・イワナの川釣り、シロウオ漁、サクラマスの遡上などに配慮し、汚濁防止対策を実施した上で 12 月～3 月としました。




標準横断図

### ３．まとめ

今回の改修区間ではみお筋の保全が図られ、施工後 1 年で河岸植生は回復傾向にあります。

今後もモニタリング調査を継続し、課題や改善点を残工事区間にフィードバックさせながら、より環境に配慮した川づくりを目指していきます。




施工後の状況

## ◆『多自然川づくりと整備後の環境モニタリングについて　～毒沢川の取り組み～』

岩　手　県

### １．はじめに

毒沢川は岩手県花巻市東和町に位置し、山間の田園地帯を流下して猿ヶ石川に合流後、北上川に流入する流路延長 9.2km の一級河川です。当該河川は平成 19 年９月の出水により被災したことから、県単独事業を導入して河川改修を実施しました。この流域は、「谷津田（やつだ）」と呼ばれる里山地形であり、その特有の自然環境に配慮しながら多自然川づくりを行いましたので、その内容について報告します。

### ２．整備前の状況

当該流域は、山に囲まれた狭い土地に水田が広がる「谷津田」という地形であり、山～平地～水田～川までの陸域から水域に連続した環境が形成されています。施工前の環境調査結果からも、サシバ等の猛禽類を頂点とする食物連鎖が成立しており、多種多様な生物にとって良好な環境であることが確認されました。河川改修にあたっては、その良好な環境の保全を考慮した川づくりを行うこととしました。




### ３．川づくりの方向性と、環境保全の取り組み

河道計画の立案にあたって、以下に配慮しつつ多自然川づくりに取り組みました。

| |
|---|
| ①水生生物の生息場所の確保、形成　②水際植生および周辺湿地環境の保全および再現<br>③支流や水田との連続性の確保　④維持管理の継続性 |

また着工前には、工事区間内に生息する希少種を中心に 27 種約 1,600 匹を工事影響範囲外へ移設・移植し保全に努めました。移植先は、学識経験者の意見を伺いながら、支川など移設前の生息環境に似ている場所を選んで行いました。

### ４．整備後の状況




整備後の状況を把握するため、H24 年度に環境モニタリング調査を実施しました。

植物は回復状況が良好であり、移植した希少種「ウマノスズクサ」も移植先で生育しているのが確認されました。また、「ギバチ」「ヨコハマシジラガイ」などの水生生物も確認されました。移植先で確認された貝類は、学識経験者の指導により、毒沢川へ再放流を行いました。

今回の調査結果によると、食物連鎖を形成する全ての階層の生物が確認されたことから、今のところ河川改修前の生態系が保全されていると考えられます。その理由として、澪筋（水際植物）を保全したことにより、水生生物の生育・生息空間が確保され、そこが供給源となって改修区間へ回帰したことが考えられます。両岸拡幅を行った区間は水際が単調となっている箇所もあることから、今後もモニタリングを続けるとともに、必要に応じて修繕も行うことを検討する予定です。

## ◆『青森県下北八戸沿岸の一部における津波浸水予測図の公表』

青 森 県

### １．はじめに

青森県では、東北地方太平洋沖地震に起因する津波災害を踏まえ、最大クラスの津波を想定した津波浸水予測図を作成して県民の津波避難対策に資することを目的に、平成 24 年 1 月に青森県海岸津波対策検討会を設置し、検討を進めています。（写真参照）

### ２．H24 青森県太平洋側想定地震（H24 青森県太平洋側想定津波断層モデル）の概要

検討会では、太平洋側の波源域として、三陸沖中部から十勝沖の中でこれまで内閣府中央防災会議で検討された津波断層モデルを参考に、本県太平洋側に最も影響があると想定された三陸沖中部から三陸沖北部となりました。

断層モデルは、検討会のアドバイザーである弘前大学佐藤教授提供のセグメント及びパラメータを使用し、その他すべり量分布については、南海トラフの巨大地震モデルを参考に設定しました。また、地震の規模については、津波堆積物調査の結果を基に Mw9.0 としました。

### ３．下北八戸沿岸の一部における津波浸水予測図の公表について

津波シミュレーションの結果、下北八戸沿岸のうち、日本海側を波源とする津波の影響が少ない太平洋岸（階上町～東通村尻屋崎）について、平成 24 年 10 月 2 日に公表しました。（資料参照）

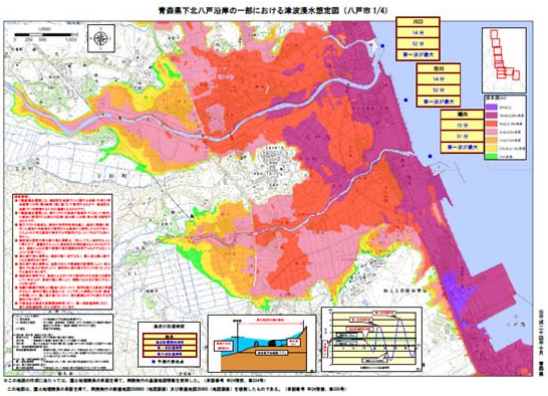
陸奥湾・津軽沿岸と太平洋岸を除く下北八戸沿岸については、平成 25 年 1 月末に公表を予定しています。

### ４．おわりに

現在、市町村では、避難体制の整備のため、津波ハザードマップの作成に取り組んでおり、県としても、市町村へ津波対策に関する技術的支援を行っていきます。




検討会状況



公表資料

## ◆『山形県防災トップセミナーの開催について』

**山　形　県**

近年、山形県内でも局地的な集中豪雨が多発しており、洪水や土砂災害から人命を守るため、従来から実施しているハード対策だけでなく、地域における警戒避難体制の整備など、防災体制の充実・強化が急務となっています。

また、県内においては、発生確率が全国主要活断層の中で高いグループに属する山形盆地断層帯（北部）や庄内平野東縁断層帯、やや高いグループに属する山形盆地断層帯（南部）や新庄盆地断層帯があり、万が一地震が発生した場合には、甚大な被害が想定されます。

このような状況の中、災害発生時にはトップの初動対応が大変重要と考えられることから、山形県では、災害時における危機管理の向上を図ることを目的として、例年県内市町村長等を対象とした防災トップセミナーを開催しています。

今年度は講師として時事通信社山形支局長の中川和之氏を招き、「災害と危機管理＝自治体トップに求められていること　～伝え手の経験からのお願い～」と題して、１０月１５日に開催しました。

当日は、東日本大震災での行政の対応から見る教訓、他県の防災教育の成功事例、過去の災害から学ぶこと等について、写真、動画を用いて分かりやすく講演していただきました。

また、マスコミに携わる立場から、

○意思決定に情報は重要な役割を果たす。特に災害時には、平時に比べて多様で膨大な意思決定が必要となる。誰がどういう意思決定を必要としているかを考え、必要な情報を届けることが必要である。

○「何が起きたか」「今後の対応の流れ」を知ってもらうことが大切。情報が伝わることで、住民は安心感と将来への手がかりを得ることが出来る。

○マスコミに過剰な期待をしては間違い。発信者側は、誰に何を伝えるかをしっかり見極め、マスメディアは情報のトリガーとして、「詳しくは Web で」的に使う。

など、災害時における情報の取り扱い等、今後の防災業務の参考となるアドバイスをいただきました。





市町村長、消防・警察・自衛隊等のリーダー等をはじめ、国土交通省・山形県・市町村の防災担当者等約 120 名が参加しました。

## 整備局の動き　等

### ◆第２回河川維持管理検討会について

**地域河川課　計画係**

河川の維持管理については，近年の水害の多発を受けて治水上の安全確保が求められている一方で，厳しい財政状況の下でより一層のコスト縮減の取り組みや地域の実情に即した柔軟な対応が求められており，計画的・効率的な河川維持管理に関する取り組みとして，河川維持管理計画や長寿命化計画等の作成が求められています。

そのような背景を踏まえ，東北管内における河川維持管理に関する率直な意見交換等を行い，今後の河川維持管理に役立てることを目的として，東北各県及び政令市の河川維持管理担当者を対象として，今年度２回目の河川維持管理検討会を開催しました。

検討会では，中小河川における維持管理に関して，「河川巡視，施設点検，除草等についてどこまで出来るか・やれるか」及び「今後の河川維持管理」について意見交換を行うとともに，直轄河川の維持管理状況等について情報提供を行いました。

検討会を通じて様々な取り組み内容や抱える課題等について，相互に共通認識として共有が図られたことから，引き続き課題解決に向けた検討会を実施する予定です。

＜第２回河川維持管理検討会について＞

日時：平成 24 年 11 月 5 日(月) 13:00～15:00

場所：東急ビルＡ会議室

１．意見交換

・河川巡視について

・堤防除草（堤防点検）について

・河道監視について・樋門・樋管操作について

・今後の中小河川における河川維持管理について 等

２．情報提供

○直轄河川の維持管理状況等について

・河川構造物の長寿命化計画について





■堤防除草の取り組み事例（青森県：アタッチメント式除草機械による除草）

### ◆平成 24 年度総合流域防災協議会幹事会の開催について

**地域河川課　計画係**

今回の幹事会は，年度初めに開催した総合流域防災協議会時の調整事項に対するフォローアップを含めて、実質的な協議等を効率的に実施することを念頭に，今年度は 11 月下旬～12 月中旬にかけて開催しました。

幹事会では，圏域毎の調整状況の確認，今後の地震・津波対策に関する取組み状況，議題に対する意見交換会等を行いました。

特に，河川維持管理技術に関しては，各県等における現場でのモデル的な取り組みのアイデア・ヒント等について，意見交換を実施，今後は、具体的な取り組みに向けて調整していければと考えています。

＜総合流域防災協議会幹事会の開催状況＞

| 圏域名 | 開催日 | 開催地 |
|---|---|---|
| 米代川圏域・雄物川圏域・子吉川圏域 | 平成 24 年 11 月 26 日(月)13:00～15:00 | 秋田総合庁舎会議室 |
| 最上川圏域 ・ 赤川圏域 | 平成 24 年 11 月 29 日(木)13:00～15:00 | 山形河川国道事務所大会議室 |
| 阿賀野川圏域・いわき・相双圏域 | 平成 24 年 12 月 3 日(月)13:00～15:00 | 福島県庁会議室 |
| 名取川圏域・阿武隈川圏域 | 平成 24 年 12 月 4 日(火)13:00～15:00 | （仙台市内）東急ビル会議室 |
| 岩木川圏域 ・ 高瀬川圏域・青森・むつ圏域 ・ 馬淵川圏域 | 平成 24 年 12 月 12 日(水)13:00～15:00 | （青森市内）アラスカ会館 |
| 北上川圏域 ・ 三陸圏域 | 平成 24 年 12 月 13 日(木)13:00～15:00 | 盛岡地区合同庁舎会議室 |





## 編集後記

平成２５年１月１５日、公共事業を柱とする緊急経済対策を盛り込んだ平成２４年度補正予算案が閣議決定されました。各県においては年末の慌ただしい中での作業等大変ご苦労様でした。年度末の事業執行管理に加え、補正予算の発注準備へと、今後、益々慌ただしくなっていくものと思われますが、体調管理には十分留意していただければと思います。

今後も、この「個性の大地」の編集にご協力をお願いいたします。

*コラム*

**データブック名称決まる！**

『〔東北版〕河川・ダム・海岸・砂防事業データブック』

データブックは国及び都道府県の担当技術者が業務を進めるにあたり、参考となる基礎データを一括取りまとめ、更なる業務の効率化等を図る目的で作成するもので、現在、発刊に向けて作業中です。

今回、名称決定にあたっては、地域河川課と東北６県及び仙台市の皆様から名称公募・投票により決定に至りました。ご協力ありがとうございました。